

## ホームページを更新しました

宮原 豊 (9組)

去る3月31日にアップしてもらった「野生司香雪って・・・誰でしたか？」という投稿文の中で、個人のホームページ (HP) を開設したことを紹介しましたが、予期せぬ事情があり、まだ2カ月間も経っていないのにHPサイトを更新しましたのでご案内いたします。時間のある時にご覧になっていただければ幸いです。

予期せぬ事情とは、HPに不慣れなために一瞬にしてアカウントを消去してしまったことですが、その原因は自分のITリタラシーの問題でありました。

令和に改元された直後に、65期HPで「平成と私」という特集が組まれました。私は自分の罹った病気の事ばかりを紹介しましたが、その時に実は別のタイトルのものを用意していました (未発表)。その時と変わらないどころか、今回の失敗は「平成の30年間ずっと苦戦し続けてきた問題」でした。同感いただける方もいるのではないかと、少し加筆して投稿します。

なお、個人HPから「野生司香雪」(英語)のサイトを独立させ、野生司香雪画伯顕彰会の公式サイト (<http://nosu.info/>) と相互にリンクすることになります。どうも能力以上のことを背負ってしまい頭が痛いのですが、これも「仏縁」であると最善を尽くします。こちら併せてご覧ください。

宮原個人HP : <http://miyahara-yutaka.jimdofree.com>

野生司香雪HP (英文) : <http://nosu-kosetsu-tokyo.jimdofree.com>

## 《随筆》あゝ昭和は遠くなりけり

昭和20年代に生まれ育った自分にとっては中村草田男の「降る雪や明治は遠くなりけり」(昭和6年作)はピンとこなかった。実際に明治を知らずに明治に対する感慨が生まれようはずがない。30年間の平成時代を経て「令和」となり、初めて草田男の心情がよくわかる。「あゝ昭和は遠くなりけり」である。

平成から令和になり、そう感じるのはどういう時か？ 私の場合はITに苦労している時である。役人なのかマスコミなのか、一時悪い冗談が流行った。『(2000年問題が収まった頃)インド訪問を前にして首相レクを行った外務省の職員が、インドの情報通信産業(IT産業)の発展ぶりを首相に懸命に説明し、「首相、今までのところで何かご質問はありませんか？」と、そこで首相は首を傾げながらしばらく考えこんでいたがモジモジと「ところで、君がずっと説明している紙に書いてある“イト”って何のことなんだ



あ？』。『ああ、今まで俺は何を説明してきたのだろう、こんな馬鹿〇〇・・・』と、こんな失礼な冗談で首相を貶めるとは何なんだろうと思いつつ、ちょっと胸に手を当てると、ああ自分もほぼ同じレベルだ。「イット」って何なんだと、自分のことに思い当たる自分がそこにいるのであった。

平成の30年間、通信手段は日進月歩で変化してきたが、自分の日常生活に最も大きな影響を及ぼしたのはITではなかろうか？ 昭和天皇が崩御された昭和64年（1989）1月、自分は40歳だった。あの頃は自分も若かったと思う。あの頃が境目であった。

人間そのものは昔からあまり進歩していない。確かに人間の中身が変わった訳ではないが、ITのお陰で仕事の進め方や生活が大きく変わった。固定電話がケータイ電話になり、それがスマートフォン（スマホ）になった。今では手元に小型コンピュータ搭載のスマホが必需品となっている。スマホに蓄積された情報は自分の命と同じくらいに重要だ。使いこなしている訳ではないが、スマホに接しない生活はありえない。家内は「あんたはスマホ中毒だ」と言う。

80年代中頃、マッキントッシュ（マック）の小型PCが世に出た時にマニラで、フィリピン人スタッフのたつての要望であり、反対する上司を説得して1台購入し、自らもスタッフと一緒に講習を受けた。英語で習う技術用語（略語）が脳みその中を一回転もしないで真っ直ぐに素通り、いつまで経ってもチンプンカンプン。その15年後に東京で受けたPC研修でも同じで、結局はよく理解できないまま、時々画面に表示される「不正」という指摘に、「不正とは何だ、馬鹿にするな」と腹を立てた。その時に既に機械に愛想をつかされたようだ。

時は平成に移行し、90年代にITの本場シリコンバレーで「マックかマイクロソフトか」と事務所のPC新機種導入の議論をし、マイクロソフトを採用した時も、職責上は責任者でありながら問題を理解していたとは言い難い。そもそも自分がPCを使う羽目になるとは考えもせずにスタッフ任せにして帰国したら、日本でいきなりPCを持たされた。PCが使えないと仕事にならない。とりあえずメールの送受信だけは習得し、Wordで書類作成ができるようになった。「530中国大使館」とネットを使ってマージャンをセットしていたが、知識と技術はそこ止まり。既に中間管理者になっていたこともあり、業務資料の作成は全て部下任せ。これが平成8年（1996年）で問題の始まり。あそこに戻れないだろうか。今でもWordは何となく使えるが、Excelは大の苦手で、たまに表作成をするが、少し込み入ったものは失敗ばかりで、まともに資料作成が出来ない。

ITの進歩は想像を絶するが、PCで書き残したものはあまり脳裏に残らず、電気のように流れては消えていく。記録したことさえ記憶していないのではどうしようもない。類型化し体系化することを学ぶ必要があると自覚しつつ、数々の資料ファイルはフォルダーの中に乱雑に並べられている。インドから帰ってきてから、2年間に50回も講演したインド経済講演会は、自ら作ったパワポ資料を駆使した。一回覚えると自分で作れることが楽しかった。記憶していないことが記録されており、ITに感謝。他人が見ればITの世界にしっかり溶け込んでいるように見えるかもしれないが、実は根っからのアナログ人間で、PCの使い方の本当のことは理解できない。

スマホの機能も全体の10%程度しか、いや5%以下しか利用していないだろう。それでも便利で、分からないことがあると（最近は簡単な英単語や漢字も怪しいから）直ぐスマホで調べる。そんな時に自分の脳みそが収縮していると自覚させられるが、同時にスマホの便

利さを痛感する。メール以外に、SNS (Facebook) も Line もやっているし、iCloud も使っているが、本当はよく分かっていない。セキュリティとか心許なく我ながら危なっかしいと思う。最大の問題はパスワードの管理。ああ、デジタル人間にはなれない。だから、ネットバンキングは絶対にやらない。

今や高校や大学の同級会の案内もメールであるが、時にメールを見ないとか、そもそも PC を全く使っていないと言う友人もいる。メールくらい使えないと相手にしてもらえないと思いきや、よくしたもので「俺はメールを使わない」と宣言されれば、そういう友人には電話で連絡する。でもメールをしない人とはどうしても疎遠になる。ちょうど我々の年代が分水嶺のようだ。人間は変わっていないはずなのに、世の中が変わってしまった。

昭和しか知らない同級生の栗原剛君とは年に数回の絵ハガキで、ハガキとハガキの合間に酒を飲み交わした。ハガキは、今も彼の独特の筆跡から語り口を鮮明に甦らせてくれる。手間がかかり電子メールの便利さに太刀打ちできないが、IT のなかった昭和時代が懐かしい。

令和 2 年 1 月以降、中国・武漢発の新型コロナウイルスが世界中に拡散し、人々の暮らしや仕事の仕方が変わろうとしている。「元に戻る」のではなく全く違う様相を呈することとなりそうだ。仕事はテレワークが増え、教育も講演会も YouTube やスカイプ、飲み会さえも家にいながらネットで勝手飲み。“痛勤列車”に乗らなくて済むかもしれないが、何でもヴァーチャル化できるのか？ 美味しいものはネットで注文、恋愛もヴァーチャルで直ぐ始め直ぐに消去するのか、安上がりで傷心もなく安心だ。職場で嫌な上司の顔を見る機会も減る。しかし、そんな世の中でいいのかねえ。「友達 100 人か、出来るかなあ」。

令和になり平成の 30 年間を振り返ると、懐古主義と言われようと何と言われようと、我らが青春の「昭和はよかった」。(写真：昭和 51 年仏国パリ) (了)